

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400211		
法人名	株式会社 ハピネライフ光		
事業所名	グループホーム すいせん渡橋		
所在地	出雲市渡橋町 304-1		
自己評価作成日	令和6年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3290400211-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3290400211-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年11月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的であつとホームな雰囲気や関係作りを心掛けている。  
ご本人のペースに合わせ、職員本位にならない様、尊重している。  
月1回、ご家族様にはお手紙と、すいせん便りを送り、日頃のご様子が伝わる様に、来所時にもなるべくご家族様とお話し、生活の様子が伝わる様にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホームすいせん渡橋は木造平屋建て1ユニットのホームで、ゆったりとした空間で家庭的な雰囲気の中で職員と利用者の信頼関係が構築できるよう努めておられます。コロナ禍のため地域交流も難しい状況が続きましたが、今年度は久しぶりにハピネ祭も再開され、フリーマーケットやキッチンカーの企画もあり、盛況でした。また、地域の公民館に利用者の作品も出展され、見学にも出かけられました。少しずつ以前のように職員と一緒に外出できるようになり、お誕生日の方と外食に出かけられる計画もされています。食の楽しみとして行事レクで利用者も手伝いながら、一緒におやつ作りなども行われています。面会制限も解除されており、家族とのお話しをされる機会も増えました。毎月のお手紙とすいせん便りで利用者の日頃の様子のお知らせは続けられており、家族との良好な関係も築かれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前は、朝礼時に唱和をしていた。各部署に経営理念を掲示しているが、意識をして読み上げたり見たりしている職員はいないと思われる。	事業所は出雲ケアセンターとしてグループホームをはじめとして複数のサービス(デイ・小規模・有料)を提供されており、開業以来からの理念はいつでも確認できるよう各部署に掲示されています。	外部評価の機会を利用されるなど定期的に理念共有した実践が行えているか振り返りの時間を持たれることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に、年1回のハピネ祭りに来ていただいている。昨年はフリーマーケットやキッチンカーで賑わった。年1回の地区の公民館祭りに作品を展示し、入居者様と一緒に観に行っている。	コロナ5類移行になり、久しぶりに地域の方にも来て頂く毎年開催されていたハピネ祭りが再開され、キッチンカーやフリーマーケットも新たに企画され盛況でした。また、地区の公民館祭へは利用者の作成した作品を展示して頂き、利用者も一緒に見に行かれました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の書面のみになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、報告を行っている。意見は、随時、サービスに取り入れている。昨年は開催を行っておらず、10月から毎月開催することになった。	基本的には2ヶ月に1回、利用者の状況や行事の様子等を伝え意見を頂き活かしておられました。昨今のコロナ禍の影響により定期的な運営推進会議の開催ができてないこともあり、年間6回開催できるよう10月からは毎月開催されています。	自治会長もメンバーとして来られる際には地域の情報を教えて頂いたり、市からの介護相談員からの意見を聞ける会を持つことも良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、随時連絡を取り合っている。書面や連絡にて協力体制で取り組んでいる。	コロナ禍においてはコロナの情報が中心でしたが、市の担当課には運営推進会のメンバーとして参加して頂き、日頃から必要時には、書面や電話連絡をされ、協力体制が築けるよう取り組まれています。また、3ヶ月に1度介護相談員の訪問もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を行っている。ホールの入り口を施錠しているが、ご家族様には6ヶ月ごとに承諾書を書いてもらっている。職員は半年に1回、振り返りシートの記入をして意識づけをしている。	身体拘束委員会を定期的に開催されています。3要件を満たしやむなく拘束する場合には、家族は承諾頂く等手順に沿って実施しておられます。職員は半年に1回、振り返りシートの記入をし、身体拘束のないケアを意識されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自が気をつけて、観察を行っている。細かい部分でも記録を残し、情報の共有に努めている。	虐待防止指針の策定、委員会の設置及び開催、年2回の必須研修等、虐待防止への取り組みが法人より各事業所へ伝えられ実施されています。職員は各自気を付け、観察を行いながら、細かい事柄も記録に残され、情報共有が行ない虐待防止に努めておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、理解している職員はまだ少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に加えて、入居時補足説明書を作り、重要な事をしっかり説明し、家族の疑問にも答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた際、職員が日頃の様子を伝える様にしており、その時に意見や質問をいただいている。いただいた要望や意見は、職員間で共有し、運営に繁栄させている。	利用者には日々の会話の中で聞かれておられます。家族には面会時やプランの評価・見直しの際にも意見・要望を伺われています。頂いた意見・要望は職員間で共有し運営に反映され、家族からの信頼を得よう心掛けておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回(朝・夕)の申し送り時や、ケアカンファレンスで出た意見を施設長や上層部に届けている。職員から出た意見は、その場相談しあい、業務に取り入れたり、改善したりしている。	朝夕2回の申し送りの際や職員会議、ケアカンファレンスで出た職員の意見は施設長や上層部に届けられています。職員から出た意見は相談や検討をされ、業務に反映され、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等で意見を聞きながら、反映させている。月2回の管理者会議にて会社への要望も伝えている。希望があれば個人的に上層部との面談も行っている。	管理者は本部での会議にも出席され、職員の意見・要望も伝えられています。また、人事考課制度を導入され、職員のやりがいにつながり、昇給にも反映されています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて取り組んでいるが、最近では外部研修への参加がほとんど無い為、今後は参加していきたい。	コロナ5類移行後は外部研修も再開されていますので、今後は内部研修だけでなく外部での研修の機会を増やしていく予定です。	交代勤務ですから、時間の有効活用のできるYouTubeでの身体拘束、虐待防止の研修も行われ研修記録を残していけることも良いと思います。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は、ほとんど無い為、これから増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各入居者に担当職員をつけ、担当者を中心に、気がついたことがあれば、介護記録や連絡ノート、カンファレンスで情報を共有し、情報を共有し、良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際に、ご家族から要望をお聞きし、意見を取り入れる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスや支援の方法を提案、説明を行い、柔軟に対応できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある程度自立できている方に関しては、ご本人のペースで出来ているが、介助が必要な方に関しても声を掛けながら、こちらのペースにならない様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の際には、家族にも同行していただき、家族と協力しながら援助する関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍で面会の制限はあるものの、夫婦で外食に行ったり、娘様の自宅で食事をしたり、受診の時に買い物や外食をしたりと、限られてはいるが継続していただく様支援している。携帯電話で友人に連絡している方もおられる。	現在は他の利用者への配慮もためもあり、別室で面会をして頂かれています。夫婦で食事に出かけられたり、娘さんのお宅で食事をされたり、受診時に買物や外食をしておられる方もおられます。携帯電話で友人に連絡される方もあります。	昔話をしながら回想法に繋げて行かれる工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを考え、利用者どうしに輪が出来やすいように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば、随時受けており、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の声を楽しみや、やる気に繋げる様な支援に努めている。定期的に希望食をお聞きして昼食レクを行ったり、駐車場でランチやお茶をしたり、花を見に行ったりしている。またドライブも行っている。	ちょっとした楽しみを提供することにより、本人のやる気につながる支援ができるよう心掛けておられます。11月の誕生日の方から久しぶりに職員と一緒に外出に出かけられる計画をされました。	本人の理解できる生きる目標と一緒に作ってもらい、毎日の生活に張りを持ってもらえる工夫に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やカンファレンスなどを通じて、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく記録し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居契約時にお聞きした、ご家族の思いをもとに面会時などに都度、ご希望、悩み、課題などを取り入れプランに反映させている。	モニタリングの際には毎日の関わりのある部屋担当の意見を中心に聞き、他の職員の意見も確認し共通理解をされています。家族からの意見・要望も反映されたプラン見直しが6ヶ月毎に行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録し、職員会議で情報の交換、共有をし、カンファレンスでの見直しをしている。	記録は手書きで行われています。計画作成者から評価・見直しのあった所は伝えられ、留意点について記録を残される際の注意を話され、情報共有されています。	今後職員の負担軽減のための生産性の向上に向け、介護ソフト、ITC導入、タブレット入力も検討される事も良いと思います。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外はほとんど出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市内の病院より6名の方が往診を受けている。1名は通院支援を使っている。2名はご家族と受診をされる。受診時は、薬の残量や体調など紙に書いてお渡ししている。症状にあわせて薬の処方をしていただいている。	利用者それぞれのかかりつけ医を受診されています。6名の方は往診(内科)も行われています。皮膚科の往診も来られています。その他の科を受診される場合(歯科も含む)は家族と受診されており、薬の残量や体調等書いた書面を渡されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や異常があれば、他施設の看護師に見てもらい処置をしている。受診が必要と思われる場合は、かかりつけ医に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた際には、入居者の状況を踏まえ、入院先の病院へ情報提供し、病院とご家族と連携をとっている。また、治療や入院期間に応じて、どこまで回復されたら戻れるかを病院、ご家族と連絡を取り合い、連携を図っている。	入院先の地域連携室のソーシャルワーカーがおられ、情報提供をされ、早期退院を目指されています。また、退院時には退院カンファレンスがあり、退院後の生活の注意点等アドバイスをもらわれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。重度化については、状態に応じて主治医、ご家族、職員と連携を取りながら相談、検討を行っている。	利用開始時に看取りについての説明を行い同意を得ておられます。基本的には看取り対応は行われていません。食事の経口摂取が難しい等の重度化が進んできた場合には、医師、家族、職員と相談・検討が行われ、病院・特養への施設移行への検討が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時対応の研修を設け、日々のケアの中で、急変時の対応について職員に意識づけをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄は有料ホームにしている。定期的に地域の方にも入っていたき、避難訓練を行っているが、全職員がいざというときに的確に判断ができるかは、不安である。近年、水害が多く、的確に避難する判断や連絡などの連携が出来るか不安がある。	事業継続計画(BCP)の作成されており、各災害に対する対応方法も記載されています。定期的な避難訓練を実施され、地域の方も声掛けしておられます。食料等の備蓄は有料ホームにされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴時など、プライバシーを尊重する対応をとっているつもりだが、適切でないときもある。周りの職員が気付いたら注意し合うことも十分に出来ていない。	排泄介助や入浴時の声掛けの際には注意されているが、大きな声になる場合もあります。身体拘束、虐待、接遇の研修もされ周知されていますが、周りの職員の関わり方が適切でないと感じた時に注意し合うことは十分できていないと感じられています。	職員間でお互いに気付き合い、気軽に注意し合える職場環境の構築に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声がけを工夫し、本人の思いを引き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えないときもあり、職員側のペースになってしまうときもあるが、極力添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、なるべく一緒に選ぶようにしている。出来ない方は、同じ服にならないよう、職員が注意して選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や台拭きに関して、出来る方には、していただいている。おかずも盛り付けもやっていたい。行事レクの際には、野菜の皮むき、盛り付けなど、できることをしていただいている。	主食と汁物は作られ、主菜副菜等は湯煎で提供されており、夕食は業者のお弁当を利用されています。行事レクや手作りおやつ、つるし柿作り、栄養士を中心に献立の工夫をされ、外食にも出かけて、食の楽しさを提供できるように心がけておられます。下膳や台拭き、盛り付け等それぞれができることをされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み、お粥、トロミで、それぞれに対応している。水分摂取量が少ない方には声掛けを工夫したり、起床後にお茶をお出したり、希望があればお茶以外の物も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、自立の方にはやっていただき、介助が必要な方は力に応じたやり方を行っている。	毎食後、それぞれの状態に応じたケアが行われており、義歯はホームで管理されており、夜間に洗浄液に漬けて清潔保持が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	PTトイレを居室に設置している方も、日中はなるべく共用トイレを使用していただいている。尿意便意がない方には時間を見て介助している。リハビリやパットの汚染がある方は、都度見守りをしている。	夜間だけポータブルトイレを居室に置かれている方もありますが、排泄チェックシートを基に排泄リズムを把握し、声書け、誘導、介助等個々に応じたケアを行い、日中はできるだけ共用トイレを利用して頂き、最期までトイレで排泄ができる支援を心掛けておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い体操やラジオ体操を行い、運動への援助をしている。水分摂取も促している。便秘が及ぼす影響については、一部理解が浅い者も居ると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は基本的に決まっているが、時間帯や順番は、その時の状況で職員が決めてしまっている。声掛けをし拒否をされたら順番を変え、再度声を掛けたり、入浴日を変えたりしている。	基本週2回入浴して頂かれています。本人の体調や体の状況に応じてシャワー浴をされる方もあります。現在強い拒否のある利用者はおられませんので、みなさん入浴時間を楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで居室で休んでいただいている。眠れない時は、ホールで過ごしていただく様、声を掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様のファイルに処方薬の効果や副作用、用量がわかるように綴じてある。変化があれば記録に残しているが、深くは理解できていない。	薬局から分包した状態で届けられており、各利用者様のファイルに処方薬の効能や副作用、容量が分かるよう綴じておられます。また、薬の変更があった場合には変化がないか注意し、何かあれば医師に連絡をされています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、嗜好品を頭に入れ、個別レクを提供する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出支援は出来ていない。ご家族の協力が得られる所は、受診日や、ご家族の都合で回出、外食をされる方もおられる。地域の方と協力しながらの支援は出来ていない。	コロナ5類移行に伴い久しぶりに誕生日の方が職員と一緒に外食に出掛けられます。ドライブ外出の機会を持ち外気に触れたり、ベランダもあり、天気の良い日には外でお茶を飲まれ季節の移ろいを感じてもらわれています。また、本人の希望を把握し家族の協力を得て、外出される方もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は所持されない様、ご家族に契約時からお願いしている。必要な物があれば、ご家族に買って持って来ていただくか、預り金で職員が買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話は2名所持しておられるが、実際使用しておられるのは1名のみ。年賀状は毎年、入居者様からご家族に出している。1名の方は、毎月娘様から手紙と写真が送られて来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、ほどよい明るさの照明にしている。常に花を飾り、季節を感じられるようにしている。 玄関の飾りつけも毎月変えている。	ホールは、温度管理もされ、換気にも気を付け、明るすぎない照明にされ、ゆったりとした感じできつろげる空間になるよう心がけ、花を飾り季節を感じられるようにされています。また、玄関の飾り付けも毎月変えられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置で、気のあった方、また、全員とも話しやすい席にしている。居室やトイレ以外で1人になれる空間は、無い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来て置いていただくよう勧めているが、家具など大きな物はほとんどない。テレビは2名置いてある。ご家族の写真や誕生日カードなどを飾っておられ、毎日誕生日カードの犬の写真に向かって話しかけている方もおられる。	それぞれの利用者が落ち着いて過ごして頂ける居室になるよう使い慣れた物や写真などを持ち込んで頂いています。動線にも配慮したベッドや家具の配置になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の居室の戸に指名の紙を貼っている。ご自分で帰室できるようにしている。		